

ブラジル 米国の関税はオレンジ果汁産業を「危険にさらす」

[FreshFruitPortal](#) 2025年7月11日

輸出業者らは関税がブラジルのオレンジ果汁産業を「危険にさらす」と警告

トランプ大統領は、米国向けオレンジ果汁の第2位の供給国であり、世界最大のオレンジ果汁生産国であるブラジルからの輸入品すべてに50%の関税を課した。

ブラジルの全国柑橘類果汁輸出業者協会(CitrusBR)の事務局長であるイビアパバ・ネットー氏は、関税が「ブラジルのオレンジ果汁部門を危険にさらす」と警告した。

米国はブラジル産オレンジ果汁の主要な輸出先の1つであり、世界で販売されるオレンジ果汁の大部分を占めている。ブラジルのオレンジ果汁製造量の約95%が輸出向けであり、そのうち約42%が米国に輸出されている。

1月以降の状況は次第に改善してきているものの、米国農務省は今年の初めに、加工用に仕向けられるオレンジの減少によりオレンジ果汁の製造量が28%減少すると予測していた。

ネットー氏によると、新たな関税措置の下では、ニューヨーク証券取引所で取引されている濃縮果汁(先物)の価格が、1トン当たり約415ドルから同2,600ドルに跳ね上がる可能性がある。

同氏は「それは、何千もの家庭を支える高度に相互接続されたサプライチェーンである。CitrusBRは、この措置が政治的及び外交的に繊細であることを理解しているが、政府間の対立の激化は解決策ではないと考えている」と述べた。

2025年のブラジルと米国との果実貿易は、ブラジル経済に1億4,800万ドルの収益をもたらし、近い将来、この数字はさらに成長すると予想されている。

ブラジル果実生産者輸出業者協会(Abrafrutas)の理事会はプレスリリースで、「この数字は、米国がこれまでブラジルの果樹農業の主要な貿易相手であり、ブラジルの輸出業者と米国の輸入業者との間の貿易関係が相互尊重、バランス、及び高いレベルのプロフェッショナリズムによって特徴付けられてきたことを示している」としている。

リリースはさらに、「ブラジルの果実業界はその製品の米国への輸出を続けることを望んでおり、米国の輸入業者は、双方に利益をもたらすビジネスモデルにおいて、小売の品揃えを補完するため、ブラジル産果実への依存を続けたいと考えていることは間違いない」と付け加えている。

同協会は、この関係のおかげで、米国の消費者は、公衆の健康と福祉に貢献する安全で風味豊かな熱帯果実を入手することができていたと強調した。声明は、「このプロセスを継続することは、両国のビジネスリーダーの正当な願望である」としている。

同協会は、ブラジルと米国の両政府が主導して進めている交渉への支持を表明し、対話と透明性を通じて、関税問題を正常化するためのコンセンサスに到達できると確信するとしている。